



だいや川通信

今市の水を守る市民の会

第 57 号

2024年8月28日(水)

川の色

栃木県は水源地。そして私達の日光市今市では周辺の山々からいくつもの川が合流して今市扇状地を潤し、下流の平野へと流れ下っていく。その大谷川と鬼怒川は鬼怒川水系に属するが、日光市足尾の川は渡良瀬川水系となっていく。勾配もあり、流れも速く、澄み切った水の川達。日頃から見慣れているので川の色など身近過ぎて気にしたこともなかったが、6月半ばに機会があつて親類の住むドイツ内陸を旅した際、思わず川を探してしまう自分がいた。

列島の中央部に山脈を持つ島国日本とは全く構造も形成も異なる大陸の川。フランクフルトを流れているのはメイン川(下写真)で、しばらくしてその下流でライン川となっていく。川幅の広いメイン川は水の流れがまるで感じられず、ましてや日本の川のように澄み切った川の色ではなく土色。フランクフルトから北の大学の街、ゲッティンゲンを経てライプツィヒへの往復はドイツ鉄道に乗ったが、なだらかな丘を通る鉄道の周辺には川らしきものは見当たらず、貯水池から流れ出ていく小さな流れをいくつか見かけただけだった。

途中、ゴスラーという街(上写真)に立ち寄った。この街は中世から1988年まで銀・銅・鉛を産出して栄えてきた。鉱山と言っても険しい岩塊を抱くような高い山ではない。私達に身近な足尾銅山とは全く山容が異なる、なだらかな山。今も中世をまとう木組みの家が軒を連ねる市街地は世界遺産に登録されているが、登録目的の最初は鉱山採掘にあったようだ。街には水路がめぐらされていた。

その後、旧東ドイツ領だったライプツィヒに足を運び、バッハの活躍した教会や数多の石造りの建物を見学したが、今なお空を突



く尖塔や建造物を目の当たりにして地震に襲われる危険のない大陸の暮しの一端を知った。と同時に人々が水に親しむ距離を持たない地理である事も感じた。

言わずもがなのことだが、「日本の川は滝だ」と外国から評されていることをドイツ内陸の一つの大河を垣間見て、恥ずかしながら初めてそれを実感した。そして、この今市を流れる川の色を思った。山があつて沢があつて川がある。その流れに沿って人間の暮らしがあり、生きもの達もいる。このところの温暖化で日本の環境も変わりつつあるが、四季ある国だからこそ食も文化も培われてきたことを帰国後、殊に感じた。コロナ感染が落ち着き、増加しているインバウンドも日本の食や風習に新鮮な驚きを抱いているはずだ。

世界の中でも四季を持つ国は珍しいと思う。その、四季それぞれいくつもの顔を見せてくれる日本の川だからこそ、身近な川として今市の川にこれからも会員皆さんと共に寄り添っていきたいと思う。先日の大谷川花火大会。打ち上げられた花火の音が我が家まで響いてきた。その音を聞き留めながら思ったのは、多くの市民がこの夜空の華に大歓声を上げ、久しく続いたコロナ禍を払拭できただろうと。来年は思い切ってその連帯の中に出かけてみようか。

(塚崎 庸子)

目次:

川の色	1
地藏岳から 神子内川へ	2
再考 コロナワクチン	3
活動報告	4

定例会のお知らせ

毎月・第4金曜日

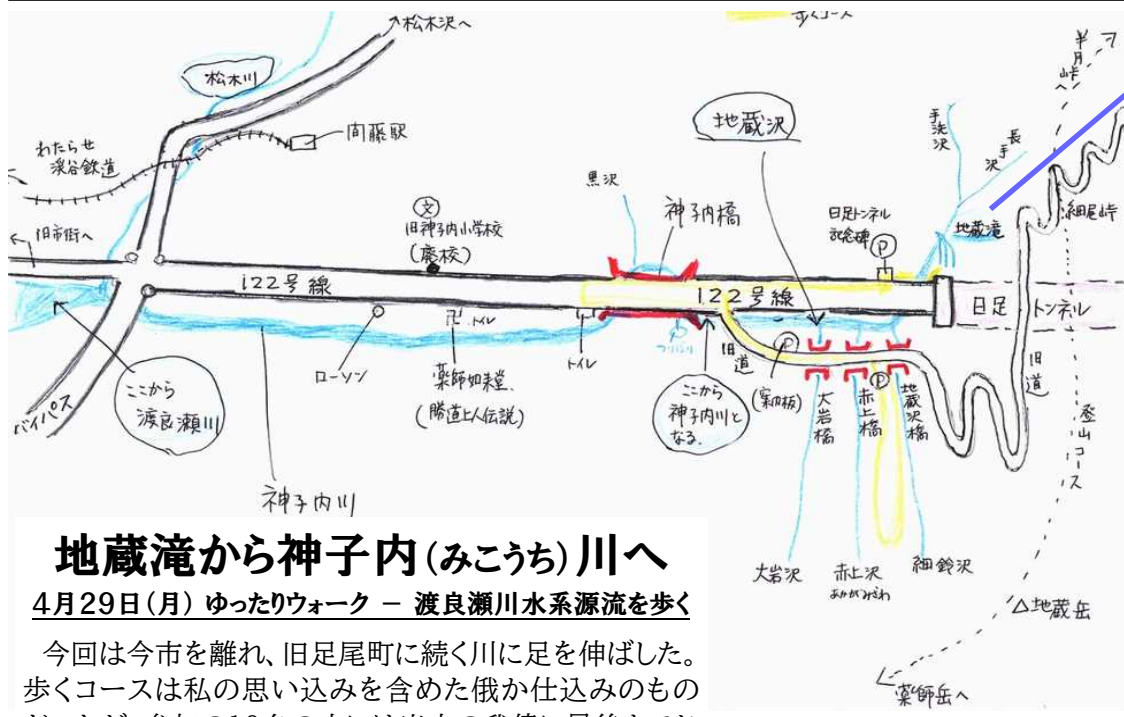
午後1時～2時

参加希望の方は会場・日時
をお問い合わせください。

◆ ご協力お願い

毎月11日はイオンの「イエローレシートキャンペーン」日です。半年に一度、レシート合計金額の1%が登録団体にカードで寄贈されます。当会も登録しています。毎月11日のお買い物時には、「今市の水を守る市民の会」のボックスにレシートを入れてくださるようご協力お願いします。(印刷用紙、プリンタインクなど)当会の活動に必要な品物を購入させていただきます。





地蔵滝から神子内(みこうち)川へ

4月29日(月) ゆったりウォーク - 渡良瀬川水系源流を歩く

今回は今市を離れ、旧足尾町に続く川に足を伸ばした。歩くコースは私の思い込みを含めた俄か仕込みのものだったが、参加の10名の方には当方の我儘に最後までお付き合いくださったことを先ず感謝させていただきたい。

細尾峠を越してゆく足尾への道はなかなか馴染み薄いものになったが、国道122号線の日足トンネルを抜けると眼下に水量豊かな溪流が現れることを昨秋知り、この流れの先を確かめたくて今回のコースを設定した。

記念碑・駐車場 → 地蔵滝 → 旧道 → 修験の道のミニ体験 → 神子内川 → 旧道・駐車場 に戻る約5キロを歩いた。渡良瀬川水系の源流に当たる。

つながる日光修験の道

昭和53年(1978)トンネル開通の記念碑から国道の橋を渡り、徒歩2～3分で到着する地蔵滝は多くの人に未だ知られていない絶景の中にあり、荘厳ささえも備えた見事な滝。参加者からも初めて見て感激したという言葉が貰えたのは嬉しいことだった。淵に向かって釣り糸を垂れる人影もあり、源流を好むイワナやカジガが棲むようだ。

国道を下り、細尾峠への旧道に入って登って行くと大岩沢・赤上沢という小さな流れが右側に。そのまま道を進むと谷を流れ下ってくる地蔵沢が現れる。そこが峠への上り坂となるが、空地の傍らには小さな石の祠に収まるお地蔵様が置かれていた。うっすらと首元に赤みをまとう姿は日光修験につながるものと想像したのは早合点だったかもしれない。だが、この奥の山にも同じ姿のものがあるのを写真でみた記憶がある。このお地蔵様の坂を登って小



な尾根を少し歩き、修験の道のミニ体験。そこは地蔵沢と赤上沢を両方見下ろせる場所だった。

神子内川

休日なので車の往来もかなりあったが、国道を一列になって歩いていくと両側の沢の水を加え川幅も広がった神子内川に変わっていく。橋を渡るとすぐ近くにある駐車場から川に降り立ち、人間の体を一度も通していない源流の水の冷たさを体感して貰った。帰路は旧道に架けられていた古い橋を渡った。コンクリートのすき間を縫って枝を伸ばす樹々に圧倒されたが、橋上を渡ってくる山の空気は極上のものだった。そして、これぞ山に生きる姿だと感じたのは、編集長が指さしてくれた山桜。決して華やかな色でなく、人間に媚びるでもなく、山の斜面に堂々と己の姿を示している山桜。この日が満開だったのではないだろうか。心を打たれた。個人的には今回のウォークで一番心に沁みた光景だ。ゆっくりの歩みでも昼前には旧道に戻ることができた。

細尾峠に行きつく前に病死した巫女を哀れみ、弔うよう勝道上人が指示した場所が神子内。旧神子内小学校前の道路をはさんだ所に建つお堂にはその昔話を記した標が建っている。

参加者の声

▼地蔵滝が良かった。▼川虫が見つかる川だと思った。▼のんびり歩けた。▼新緑とハルリンドウが目にと焼き付いた。▼落葉松の芽吹きの色が素晴らしかった。▼新緑の許、旧道に架かる橋の下に昔の堰を見つけて嬉しかった。▼ミツバドウダンツツジが見頃だった。

不思議を見つけるウォークはこれからも続けます。次回を期待してください。(塚崎 庸子)



mRNAワクチンの危険性

— 免疫学者からの警鐘 —

本稿は筆者の個人的調査に基づく報告であり、当会としての見解ではないことをお断りいたしておきます。

雑誌「文藝春秋」は、史上初めて接種されたmRNAワクチンの副作用による甚大な健康被害に関する、福島雅典氏(京大名誉教授)たちの研究を紹介した。(①)

このレポートは学会で報告されたワクチン後遺症201症例の一覧表など貴重な資料を掲載しており一読されることをお勧めする。本号では福島氏の協力者の村上康文氏(東京理科大学名誉教授・専門は免疫医学その他)の新著②での発言を通して、改めて免疫学から見たmRNAワクチンの危険性を考えてみたい。以下は村上氏の同書での発言の要旨および抜粋である。

はじめに

今回初めて実用化されたmRNAワクチンは接種が進むにつれて健康被害を訴える人数が増加し、接種との関連が否定できないために4000万円を超える死亡補償金を受け取る人が400人を超える事態に至っても追加接種は続けられている。歴史上、初めてと言える大薬害という現実が完全に無視されている。

(村上著 ②はじめに)

(1) 免疫の仕組み

私たちの体にはウイルス感染から防御するための3つの免疫の仕組みがある。最初の防波堤は**自然免疫**(マクロファージ、ナチュラル・キラー細胞)。怪しげな病原性ウイルスを貪食し、感染した細胞を破壊することで体を守るが、この段階で済んでしまうと抗体はできない。この防波堤が破られると2種類の免疫の仕組みが作動する。**体液性免疫**と**細胞性免疫**。前者はウイルスに対する抗体を作り出してウイルスの感染能力を失わせウイルス感染細胞の増加を防ぐ。後者はキラーT細胞という細胞を動員してウイルス感染細胞を殺してしまう仕組み。この二つの免疫は獲得免疫と呼ばれ、これによって「免疫の記憶」ができる。だから今回の新型コロナでも一度感染して「免疫の記憶」ができてしまえば、その人にとってのパンデミックは終わりになる。

(村上著 ②はじめに)

(2) mRNAコロナワクチンの仕組み

新型コロナウイルスは表面の突起物、いわゆるスパイクタンパク質をヒトの細胞の受容体に結合し、細胞内へ侵入する。このスパイクタンパクの遺伝子情報を取り出し、脂質の膜に包んだものが新型コロナワクチン。スパイクタンパク質の設計図と言われている。このワクチンを体内に接種すると、細胞内で大量のスパイクタンパクを産生、これに対する抗体を誘導する。この抗体がウイルスのスパイクタンパク質に結合して人の細胞内への侵入を防ぐと考えられている。(村上著②Part2)

(3) mRNAワクチンの致命的欠陥

① (ワクチンが産生する)スパイクタンパクそのものが血栓を作る毒

これは既に2021年多くの研究者たちによって明らかにされている。(拙稿③)福島氏もワクチンの副作用や死因に血管系障害と心臓障害が多い理由はここにあるとされている。

(文藝春秋①197頁)

② 抗原原罪

(カッコ内は筆者注・抗体とは異物が侵入してきたときにその特徴を覚えて攻撃する役割を持ったタンパク質。この場合体の中に入ってきた異物を『抗原』と呼ぶ。)人の免疫システムにおいては「抗原原罪」という現象が起きることが知られており、最初に感染拡大したウイルス(武漢株)の抗原を使用して免疫すると、ウイ

ルスが変異して抗原の性質が変異してしまうと(現在はEG.5株が主流)、最初の抗原の記憶が強く残っているために、その変異型ウイルスに対して対応する抗体を作れなくなる。これは免疫学者の常識。

③ 細胞性免疫の抑制

[ワクチンによる]スパイクタンパクを注入された細胞はあたかもウイルスが入った細胞と同じと見なされるため、免疫系からの攻撃を受け、体中の方々の細胞が殺されることになる。そういう現象を起こさせないためにmRNAワクチンには細胞性免疫を抑制するように作られている。細胞性免疫は非常に重要な働きをしており、ガン細胞(1日当たり何百個と生まれる)やウイルスの感染を抑える働きをしているので、ワクチンを打てば打つほど、新型コロナに感染しやすくなり、ガンなどの発症率も急増、その進行も異常に速くなる(ターボ癌)。

④ IgG4抗体(悪玉抗体)の誘導

また抗体も初めはIgG 1~3という優秀な抗体(中和抗体)ができていたが接種を重ねて3回以上の接種をするとIgG4抗体というものに代わってしまう。(これについては専門的になるので省略するが、福島氏によれば、これが上記の抗原原罪や細胞性免疫の抑制をも促進させるとの事・文春①200頁)。従って、これまでのmRNAワクチンの開発においてはIgG4抗体が誘導された時点で、そのワクチンは失敗作として開発中止とされてきた。

⑤ DNA汚染

これはファイザー社の製品だけの話なのだが、製造の過程で簡単に省けるはずの、SV40という、がんウイルスの発現レベルを上げてしまうDNAが、同社のワクチンに初めから一貫して混入していることが複数の研究者によって2023年3月以降発見されている。これも接種者の免疫能力を抑えた状態で発がんの確率を格段に上げる働きをする。

以上①~⑤の理由により、これは打っても全く意味のないリスクだけのワクチン。だから世界中のほとんどの国は既に(2023年5月頃には)国を挙げてのワクチン接種を2~3回でやめて、その結果、感染の拡大も収まっている。日本だけが、そのような常識的判断さえなされていないため、5~6回と接種を続けて新たな変異型による感染拡大を招き、健康被害を増大させている。これは歴史上最大と言える大薬害が完全に無視されている状態。

(村上著②Part1, 6)

(4) ワクチンを接種した人はどうすればいいのか

① ファイザーワクチンに関しては製造ロット別に、

A 極めて危険で有害なロット(4.2%)、

B 少し危険で有害なロット(63.6%)、

C 有害事象が、ほとんどないロット(32%)に分けられるという、デンマークその他の研究者による調査の論文が複数ある。

だから、1回のワクチン接種でAのロットに当たる確率は25人に一人。5~6回接種しても何ともない人がいるのもこれなら合点がいく。(村上著 ②Part5)

② 心配なIgG4抗体(悪玉抗体)に関しては3回以上接種した人に顕著に表れるが、ヒトの体のほとんどの細胞は1年ぐらいで新しいものに代わるので、ワクチンの接種をこれ以上しなければIgG4抗体は非常に低いレベルになる。だから、もうこれ以上の接種をしないことが何よりも大切とのこと。(村上著②Part4)

またワクチンによる健康被害に対しては、日本には「予防接種健康被害救済制度」に基づいて救済を行う仕組みがある。これに関しては福島氏らと連携している「全国有志医師の会」で検索して県内の病院などで申請の相談、診察を受けることができる。

参考図書

① 「コロナワクチン後遺症の真実」雑誌「文藝春秋」24年4月号

② 村上康文・他著「今だからわかる、コロナワクチンの真実」(花伝社2024.5月刊)

③ 拙稿「新型コロナワクチン」本通信52号 (以上/文責 森)

活動報告

3月22日(金) 定例会
4月26日(金) 定例会
4月29日(土) ゆったりウォーク(足尾・地藏滝・神子内川)
5月24日(金) 定例会
5月25日(金) 川むしたんけん(足尾・神子内川)
6月28日(金) 定例会
7月26日(金) 定例会

だいや川通信
第57号



郵便振替口座 00140-4-535550

〒321-1102 日光市板橋1732-1 森方

今市の水を守る市民の会

0288-27-2183 (8時～17時:森)

0288-26-3324 (17時～21時:塚崎)

<http://www.somesing.net/daiyagawa/>

川むしたんけん ―源流の生きもの― 神子内川

昨秋に続き同じ川です。今回は子供達・保護者、総勢9名で川に入りました。神子内川(みこうちがわ)は旧足尾町にあります。日足トンネルを抜けて国道122号を進むといくつかの小さな沢が合流し、そこに掛けられている橋を渡るとそこから神子内川が始まります。その神子内川のすぐ下の流れで「川むしたんけん」を行いました。

当日は晴れ。水温はやや低めでしたが、兩岸の広葉樹の森から渡ってくる風の心地良さも加わり、全員心弾ませて川の中の生き物をしっかり探すことができました。

河川名: 神子内川 (渡良瀬川水系)

日時: 2024年5月24日(土) 10:00AM

天気: 晴れ・気温20℃・水温11.5℃

川幅: 20m 水面幅10m

川底の状態: 砂礫・50～100cmの岩
見つかった生きものは下記です。

A 指標生物(環境省指定)

- 水質階級 I (きれいな水)に棲むもの
ヒラタカゲロウ類 多数、ヘビトンボ 5匹、
カワゲラ類 4匹、ナミウズムシ(プラナリア)5匹、
ナガレトビケラ類 4匹、ブユ(幼虫)1匹

- 水質階級 I～II (ややきれいな水)
ヒゲナガカワトビケラ 1匹

- 水質階級 III～IV (汚い水)
見つかりませんでした。

※ 指標生物の種類から、この水質は【きれいな水】と判明

B 指標生物以外の生きもの

- 水生昆虫 マダラカゲロウ、フタマタマダラカゲロウ、
コカゲロウ類、カクツツトビケラ、サナエトンボ幼虫

- その他 サナエトンボ成虫、カジカの稚魚
ボルボックス(直径3ミリほどの緑藻)

昨秋に続きボルボックスを、そして今回初めてカジカの稚魚を見つけることができました。稚魚の姿から親を判



定するのはなかなか難しいものですが、参加者の中に魚類に詳しい方がいたのではっきり同定することができました。たいへん心強く、ありがたいことでした。

神子内川は日光市の川と言っても細尾峠を越すと別の経済圏に入るようで、私達市民にはなじみの薄い川です。今回の場所はいくつもの源流を持ち、人間の身体を一度も通していない水が流れている所。広葉樹の森に守られてプラナリアやヘビトンボ、ボルボックス・カジカが見つかったのは嬉しいことでした。今回は春を迎えたばかりで生きものの種類もやや少なめ、小型でしたが、羽化を迎える時期にはまた種類も数も変わってくるでしょう。今後も注目していきたい川の一つです。

旧神子内小学校のそばを流れるこの川は、足尾の街に入る手前で西側から流れてくる松木川と合流し、そこから渡良瀬川となっていくます。わ鐵(わたらせ渓谷鉄道)に乗って川を眺めながら、群馬県の桐生へ向かう「水の旅」をするのもいいですね。川の中でもその場所その場所で懸命に生きる命があります。その姿を想像するきっかけ作りにしてもらえれば有難いです。(塚崎 庸子)

2023年度 今市の水を守る市民の会 会計報告

収入の部		円
会費		20,000
ゆったりウォーク参加費		0
寄付金		1,022
合 計		21,022

支出の部		
通信送料 / ハガキ代		13,227
ネット使用料		7,142
会費振込手数料・通知郵送料		3,863
ゆったりウォーク保険/手数料込		2,770
合 計		27,002

2023年度差引残高	-5,980
前年度繰越金	97,413
次年度繰越金	91,433

編集後記

「原子力発電所の建設費は水力発電所より安いんだ」水力発電の電気技術者だった父が話してくれたことがあった。何千億円だったか忘れてしまったが、当時最先端技術の原発が身近にある水力発電所より安上がりだという意外さは子どもの心にずっと残った■60年前の話である。放射能をまき散らす事故の可能性や原発の廃棄物について多くの人は知らなかった。いま推算すれば、原発は水力・火力電源や太陽光発電などよりずっとお金がかかり、後始末も厄介なことがわかる■父は福島原発への転勤を考えたことがあったらしいが、断念したようだ。所帯を持ち子どもが生まれたからなのか、なにか別の理由があったのか、いまはもう確かめようもないけれど、その頃の思いを聞いてみたい気がする。(T)